平成　30　年度　地域文化学専攻・比較文化学専攻　学生派遣事業　研究成果レポート

髙野哲司

１．事業実施の目的

日本の都市の庭における人と植物との関わりを明らかにする。

２．実施場所

東京都台東区谷中地域の住宅、谷中初音の森コミュニティーセンター

３．実施期日

平成　30　年　11　月　5　日（月）から　11　月　11　日（日）

４．成果報告

●事業の概要

本事業の実施内容は、（１）東京都台東区谷中における住宅の庭の植物に関する聞き取り調査および（２）谷中初音の森コミュニティーセンター（東京都台東区谷中 5 丁目）で開催された谷中まちづくり協議会における資料収集の 2 点である。

（１）平成 30 年 11 月 5 日から 11 月 11 日まで東京都台東区谷中において、住宅の庭の植物に関する聞き取り調査を行った。具体的には、台東区映像アーカイブ「谷中のすまいとくらし」（1981 年撮影）、『谷中のすまい』（1985 年）『谷根千路地事典―東京の地方叢書①』（1987 年 谷根千工房）、『台東原風景』（2015 年 台東区教育委員会）に掲載されている地点に赴き、地域住民の方々の自宅を訪問し、庭の植物の種類、植物の利用方法、庭の風景についてインタビュー調査を行った。

植物の入手経路については、「その植物はどこから来ましたか。花屋などで購入されたもの、他の方からいただいたものはありますか」という質問を行った。植物の利用方法については、「食用や薬用、生け花に使われるなど、生活の中で何かに使われている（利用されている）種類はありますか」という質問を行った。聞き取り調査の際には、庭の植物の種類の記録や庭全体の写真撮影も行った。

また、地域住民の方々には、「戦前から残されている植物はありますか」という質問を行った。オモトやナンテンなど儀礼に用いる植物も観察されたため、これらの植物の利用方法や栽培年数について質問を行った。センリョウなど庭に自然に芽生えてきたと思われる植物も観察されたので、入手経路、その利用方法について「庭に自然に芽生えてきた植物はありますか。その植物を何かに使われることはありますか」という質問を行った。

さらに、戦前から戦後にかけての庭の風景の変化を探るため、台東区映像アーカイブ「谷中のすまいとくらし」（1981 年撮影）、『谷中のすまい』（1985 年）『谷根千路地事典―東京の地方叢書①』（1987 年 谷根千工房）、『台東原風景』（2015 年 台東区教育委員会）等の既往文献に掲載されている写真を地域住民の方々に見ていただきながら、撮影場所の特定を行うとともに、戦前の植物利用を中心に聞き取り調査を行った。

（２）平成 30 年 11 月 5 日に、谷中初音の森コミュニティーセンター（東京都台東区谷中 5 丁目）で開催された谷中まちづくり協議会に出席して、戦前から残存する谷中地域の建築物に関する資料収集を行った。

●本事業の実施によって得られた成果

以下に本事業の実施により、東京都台東区谷中地域の住宅および谷中初音の森コミュニティーセンター（東京都台東区谷中 5 丁目）で開催された谷中まちづくり協議会で得られた成果を詳述する。

1. 東京都台東区谷中における庭の植物と人との関わり

1-1. 庭の植物の入手経路および植物利用

東京都台東区谷中の地域住民の庭における植物の入手経路には①購入、②贈与、③採集が確認された。①購入については、購入場所を居住者の方に質問したところ、プレクトランサスやシクラメンなどを花屋で購入する事例、神社でタラヨウを購入する事例が確認された。②贈与については、オモトなどを近所の住民に居住者が差し上げている事例が確認された。③採集については、谷中墓地（谷中霊園）でセンリョウの果実を拾い、庭に果実を埋めて実生苗を育て、栽培している事例が確認された。居住者が、夫の田舎に行った際にキンポウゲを 1 株採集して、庭に植えている事例も確認された。また、ナンキンハゼの果実を上野公園で拾い、自宅に飾りものとして配置する事例も確認された。

東京都台東区谷中における庭の植物の利用方法としては、⑴食用の事例、⑵葉を食器として活用する事例、⑶儀礼の事例が確認された。

⑴食用では、植木鉢で育てたウメの果実を収穫後、ジュースとして飲用する事例が確認された。自宅で栽培したブラックベリーの果実を収穫後、ジャムに加工して食用に供している事例も確認された。

シソやサンショウの葉を薬味に用いている事例も確認された。

⑵葉を食器として活用する事例では、植木鉢で栽培したハランの葉、ツバキ（品種名は王冠）の葉を料理の皿の代用として用いている事例が確認された。

⑶儀礼の事例では、家の鬼門にオモトを置き、厄払いを行っている事例が確認された。また、オタフクナンテンをナンテンの代用として用い、「難を転じる」という理由により栽培している事例が確認された。

庭に自然に芽生えてきた植物を利用している事例も確認された。具体的には、庭に自然に芽生えてきたセンリョウを果実が形成された状態で雑貨屋へ贈与している事例が確認された。庭に自然に芽生えてきたクチナシの実生を植木鉢に移植して栽培する事例も確認された。さらに、自然に芽生えてきたネズミモチ、ケヤキを植木として活用している事例も確認された。植木鉢の中に自然に芽生えてきたカタバミの葉を鑑賞している事例も確認された。また、自然に芽生えてきたスミレ、タチツボスミレを鑑賞している事例も確認された。

1-2. 戦前から残されている植物

戦前から残されている植物については、庭のカキノキが明治時代（もしくは明治時代以前から）残存している事例を確認することができた。このカキノキは樹高が 10mにもなる大きな樹であり、居住者の方からは、このカキノキは甘柿であり、まだ若木の頃（明治時代）に接ぎ木されたものであるという貴重な情報をいただいた。また、戦前には漢学者が住んでいたという家では、庭のロウバイやシダレウメが戦前から残存している事例も確認することができた。さらに昭和 10 年からのカキノキ（渋柿）が路地に残存しており、そのカキノキの果実が干し柿としてベランダにつるされている事例も確認することができた。

2. 過去の写真の撮影場所の特定および戦前における植物利用

既往文献に掲載されている写真を地域住民の方々に見ていただきながら、撮影場所の特定を行うとともに、戦前の植物利用を中心に聞き取り調査を行ったところ次のような成果を得ることができた。

2-1. 過去の写真の撮影場所の特定

『谷根千路地事典―東京の地方叢書①』（1987 年 谷根千工房）に掲載されている谷中 7 丁目の２つの路地の場所を特定することができた。谷中 7 丁目における 2 つの路地の共通点としては、儀礼に用いるオモトの生育が確認されたことが挙げられる。

台東区映像アーカイブ「谷中のすまいとくらし」（1981 年撮影）に記録されているアオキが植栽されている店舗の場所について、谷中地域で文具屋を営む 80 代女性に尋ねたところ、場所が判明した。その場所には現在、マンションが建設されているが、かつては経師屋の店舗があったことが明らかになった。

2-2. 戦前における植物利用

谷中地域で商店を営む店主（70 代男性）にインタビューを行ったところ、谷中 7 丁目では、かつてはブドウ棚が有り、戦前からブドウが栽培されていたことが明らかになった。そのブドウの果実は、ジュースにして飲用されていたことも明らかになった。さらに、『台東原風景』（2015 年 台東区教育委員会）に掲載されている四軒長屋（昭和初期に建築）には、戦前からイチジクの木があったことが明らかになった。商店の店主からは、子どもの頃、四軒長屋にイチジクの果実（果嚢）を採りに行き、果実を食べたという話を伺った。その後、筆者はイチジクの木があるという四軒長屋に赴いたがイチジクは生育が確認されず、かつてイチジクが見られた場所では、ゲッケイジュの生育が確認された。四軒長屋の居住者にもイチジクのことを話したところ、この長屋においては、イチジクは見たことがないということであった。商店の店主の話を参考に、既往文献の１つ『東京下町の昭和史』（1983 毎日新聞社）に掲載されている四軒長屋の写真を精査したところ、枝に果実（果嚢）と葉をつけたイチジクの木が写っていることが確認された。これらのことから、四軒長屋のイチジクは、戦前から 1980 年頃までは生育していたことが明らかになった。

3. 戦前から残存する谷中地域の建築物に関する資料収集

戦前から残存する谷中地域の建築物について防災の視座から資料を収集することができた。当日は、益田兼房先生（立命館大学歴史都市防災研究所教授）が『伝建地区の防災力』

の題目で講演された。益田先生に「家の植物や生垣は伝統的建築物群保存制度（伝建地区制度）の対象になりますか」という質問を行ったところ、益田先生からは「谷中地域にとって、その家の植物、樹木、生垣に価値があるものとして認められた場合は、伝建地区制度における環境物件として守ることができると思います」というコメントをいただいた。

さらに、谷中まちづくり協議会では、谷中地区の野生植物を中心に 30 年間調査をされている小川潔先生（東京学芸大学名誉教授）にもお会いした。小川先生からは谷中の植物について「10 年前には、谷中地域ではサクラソウを栽培している家が多かったです。かつて 90 歳ぐらいの方が 2 階のベランダでよくサクラソウを育てていました。ただ、10 年ぐらい前と現在を比べると植木をしている家が少なくなっているように思います。谷中墓地の崖地に生育するニリンソウは伝建地区制度で守るべき種類だと思います。谷中墓地のニリンソウは植物地理学的にも本種の分布を考える上で重要です。私は野生植物のタンポポの分布を中心に調べています。谷中霊園にはカントウタンポポも残されています。」というコメントをいただいた。

●本事業について

この度は、学生派遣事業を活用させていただいたことで、東京都台東区谷中と谷中初音の森コミュニティーセンター（東京都台東区谷中 5 丁目）で現地調査を行い、研究を一歩前に進めることができました。深く感謝いたします。